山形県介護支援専門員協議会

会　誌

第4号 2002.3

難産で未熟児、そして発育不良

理事　佐藤泰司

介護保険制度を見直す3年度目に入り、厚生労働省はケアマネジャーの資質向上に力を入れることになり、ケアマネジャーを広域的に応援するために、都道府県ケアマネジメントリーダー活動支援事業が始まります。

山形市では、ケアマネジメントリーダー養成、相談窓口とも市の社会福祉協議会を実施母体と考えています。ケアマネジメントを行うのがケアマネジャーであり、山形県のケアマネジャーの唯一の団体が私達の協議会であれば、本来は、私達が行うべき仕事ですが、未だ力不足ということです。ケアプランを日常的に作っていたケアマネジャーが福祉全般に精通して相談に当たらなければ、役立つ解決にはならないと思います。

介護保険は、創立の時から、走りながら考えるといわれましたが、改革の流れは速く、協議会としての管理能力を急いで確立しなければ、既存の団体に飲み込まれ、協議会としての存在感が失われます。

協議会の理事は、医師会や看護協会等の協力団体の代表でケアマネジャーです。介護認定審査会委員や施設長として活動している人が殆どですが、実際にケアプランを作っている方も居ります。

各団体としては、協議会に対して申し入れたい事があると思いますが、協議会の存在が弱く、要望することも出来ません。

ケアマネジャーが職業として社会的に確立されなければ、良いケアマネジメントは出来ません。社会的に発言力をもたなければ、施設の中でも利用者との関係においても意見が弱くなります。介護保険の鍵はケアマネジャーにあることは、最初に勉強しました。自己研鑽が大事なのは勿論ですが、介護支援専門員協議会という職能団体として意見を述べ、全国組織を作る必要があります。強く発言するためには、その組織率が大事です。ケアマネジャーがどの位参加し、実際にケアマネジャーを代表している団体かが問われます。

県内に五つの地区支部の立ち上げを準備しています。全ての会員は自動的に地区支部会員にもなり、より身近な所で勉強し、発言出来る様になります。

この会は実務を行っている人だけでなく、県内に居住するケアマネジャー全てが対象ですが、協議会は難産で未熟、そして発育不良です。会員みんなで協力して育てて下さい。

2002年から05年の間に60歳になる日本人の平均余命は、男性21年、女性は27年と世界最長です。私達の責任は重大です。

<目　次>

難産で未熟児、そして発育不足……理事　佐藤　泰司…1
特集　山形地区支部が立ち上がる……2
理事会……4
お知らせ……5
委員会報告……6
　研修委員会報告
14年度会費納入のお願い……6
県庁だより……6
　介護保険Q＆A
コーヒータイム……8
投稿募集……8
募　集……8
編集後記……8

特集　山形地区支部が立ち上がる

山形県内で先陣を切って、山形市、天童市、上山市、山辺町、中山町の3市2町の介護支援専門員が平成14年3月23日(土)山形地区支部を立ち上げました。その設立総会および研修会の様子を紹介します。

設立総会風景

地区支部の役割

県協議会の会員は、約800名を数えておりますが、勤務等によって全会員が一同に会し研鑽を積むことが困難な事や、地域の資源や実情によって会員を支援すべき内容が少しずつ違うという事、会員の資質向上にはもっと小さなまとまりでの具体的な研修が必要な事などを考えて地区支部を立ち上げる必要性を感じました。

また、介護保険制度が始まったものの、介護を必要とする高齢者の生活には種々の問題が有ります、それを補い解決しながら介護を充実させていくためには、「異業種が集まり、連携を取りながら地域ネットワークを作り、地域ケアの力を高めていくことが必要」とも感じています。

設立総会風景

と　き：平成14年3月23日(土)　13：30～16：00
ところ：山形医療技術専門学校
　　(山形市前明石字水下367)

設立準備委員の峯田幸悦の司会で総会は始められた。

1、開　　会　　岡嵜千賀子
2、挨　　拶　　熊坂　聡
　　(挨拶の要旨はホームページに掲載)

山形地区支部ホームページアドレス
http://www01.dewa.or.jp/~arabon/cgi-bin/caremane/caremane.cgi

3、来賓挨拶
　県協議会の三須良彦会長と3市2町を代表して山形市の小林健康福祉部次長より挨拶をいただきました。
4、議長選出
　加藤市左ヱ門を選出
5、設立経緯報告
　佐藤貴司より、昨年11月から6回の準備委員会を開催した経過を報告。
6、協　　議
　1）平成14年度役員体制（案）について
　2）平成14年度活動方針及び事業計画（案）について
　3）平成14年度収支予算（案）について
　以上の3項目について島崎みつ子委員より説明、承認された。
7、閉　　会

●出席者

来賓	山形県介護支援専門員協議会長	三須　良彦様
6名	山形市健康福祉部次長兼介護保険課長	小林喜四郎様
	上山市福祉事務所長補佐	加藤　啓様
	天童市福祉事務所介護保険主幹	村山　隆様
	山辺町保健福祉課長	広谷　清司様
	中山町健康福祉課介護保険係長	川瀬　勲様

会員　45名　　一般　8名

＜介護用品展示協力社＞
○車椅子、ベッド等　㈱多田木工製作所
○介護用食品　文下屋
○書　籍　㈱高陽堂書店

この総会について、山形新聞に掲載されましたので、添付します。

山形新聞

介護支援より連携

専門員245人、山形支部を設立

3市2町

介護保険制度の運用の在り方を向上させようと、山形市など三市二町の介護支援専門員（ケアマネジャー）二百五十四人が、県介護支援専門員協議会の山形地区支部を旗揚げし、市町村レベルでの連携に乗り出した。県レベルの同協議会は去年発足したが、支部発足は県内で初めて。

山形地区支部は、山形市と天童市、上山市、中山町、山辺町の介護支援専門員が登録。今月二十三日に山形市内で設立総会を開き、活動内容として、▽年四回の研修会で専門的な講演を聴いたり事例検討を行う▽業務環境の改善や負担軽減に努める▽介護支援専門員の人材バンク的機能を目指すなどを決めた。

支部長には、特別養護老人ホーム菅沢荘長の熊坂聡さんを選出。熊坂さんは「これから介護支援専門員となる人材の育成が大きな役割となるが、居宅介護支援体制の底上げのためにも大切だ」と話している。県内では村山、最上、庄内、置賜の各地区でも、同様に支部設立へ向けた動きがあるという。介護支援専門員は、介護保険制度施行に当たり、国が新設した資格。ケアプラン（介護支援計画）作成など重要な役割を担っている。

介護支援専門員の山形地区支部設立総会

平成14年3月29日　山形新聞より

研　修　会

引き続き、山形医療技術専門学校理学療法学科の有馬慶美先生から「問題を解決するためのケアマネジメント」のテーマで研修を行いました。

要　旨

モザイク型ケアプラン（あてがい型）から自立支援型ケアプランへの脱却をはかりたい。

モザイク型ケアプラン（あてがい型）

困っていること
↓
サービスをあてがう
↓
現状は何も変わらない

問題解決型ケアプラン
自立支援型ケアプラン

困っていること
↓
問題を分析し
問題を解決できるサービスを選択
↓
困っていることが軽減

今後のケアマネジャーに求められるもの、

ケアマネジャーの課題

- ○ケアの効果判定
- ○ Evidence Based Care(EBC)の実践
- ○サービス事業者の機能評価

最後に、地区支部は会員のみなさまの協力で成り立つ組織です、より良い組織になります様にご協力お願いします。

ご協力いただけます方は、

加藤市左ヱ門まで（☎624－3456）

ご連絡ください。

理　事　会

◇第5回理事会◇

1 日　時　平成13年12月14日(金)　午後6時30分～
2 場　所　浜なす分店
3 出席者　三須会長ほか12名
　　オブザーバー1名、事務局

1、開　　会
2、挨　　拶
3、協　　議
　1）会員名簿について　　(佐藤(泰)理事)
　　フロッピーで会員に配布してはどうかとの案があったが、個人情報保護の立場から印刷に決定。体裁：五十音順に氏名を並べる、費用：完成で約25万円。
　2）事務局について
　　(峯田理事、荒井・熊坂副会長)
　　11月29日に県社協事務局長と、事務局の委託について協議した旨報告。
　　費用拠出、設置時期、職員の雇用形態と業務内容、当協議会の単独委託等について、小委員会を設け検討し、理事会で最終決定。
　　小委員会は、熊坂・荒井副会長、峯田理事、佐藤(泰)理事、三浦監事の5名で構成。
　3）総会の日程について
　　・4月に開催予定。
　4）その他
　　①山形地区支部設置の案件　　(佐藤(泰)理事)
　　・山形市から、事業所連絡会などでは天童が含まれているので、天童市を支部に追加してほしいとの要請あり了承、天童市を含めて支部会員総数236名。
　　②研修会開催について　　(佐藤(貴)理事)
　　・今年度中の研修会開催について提案されたが、4月総会時に開催することとした。
　　③規約改正について　　(熊坂副会長)
　　・第33条に「地区支部を設置することができる」とあるが、「設置する」と改めたほうが望ましいのではないか。
　　④協議会のシンクタンクについて
　　(熊坂副会長)
　　理事に限らず現場の実践者を集めた研究機関的なものを設けてはどうかと提案され、調査研究部を、そのように活用することとした。
　　⑤会誌への広告掲載について　　(加藤理事)
　　・サービス事業所からの、ケアマネ募集、用具レンタル広告掲載について了承し、掲載方法は広報委員会で検討する。

◇第6回理事会◇

1 日　時　平成14年3月7日(木)　午後7時00分～
2 場　所　山形市総合福祉センター3階会議室
3 出席者　三須会長他16名
　　オブザーバー2名、事務局

1、開　　会
2、挨　　拶
3、報　　告
　1）各地区支部結成の準備状況について
　　(佐藤(泰)理事)
　　○庄内、最上、村山各支部は5月をめどに準備中、置賜は準備作業がやや遅れていると報告。
　　○山形地区支部の状況について　　(加藤理事)
　　山形地区支部設立総会および研修会
　　3月23日(土)　午後1時30分～
　　講師に山形医療技術専門学校、理学療法学科、有馬慶美先生をお招きする。
　　地区支部への助成金は、平成13年度分については早急に助成を行い、14年度分については、3月31日の会費納入期限終了後、地区支部の人数確定後に助成を行うことが、承認された。
　2）山形県高齢者保健福祉推進委員会について
　　(丹野理事)
　　主な協議事項
　　◎　老人保健福祉計画、介護保険事業支援計画の実施状況について
　　◎　計画の見直しについて　主な発言項目
　　＊介護支援専門員や事業所等によって、サービス提供に対する姿勢の違いがある
　　＊施設や事業所の有り方において、そのトップの考え方や企画力の大切さが大きく影響する
　　＊短期入所の不足について
　　＊情報網、連絡網などの幅広いネットワークの構築について

＊健康増進のための取り組みについて等

3）会計現況について　（松本事務局長）

現在の会計状況について報告。平成14年度会費納入額は1,159,000円で、内訳は、正会員 239名、新、正会員 4名、特別会員 4名、賛助会員 26名。

4）その他　（峯田理事）

事務局移転について

4、協　議

1）総会について

日　時　4月21日(日)　13：00

会　場　ビッグウイング

総会のための準備作業

＊選挙細則の作成

＊活動状況については各委員長がまとめ3月15日まで荒井副会長へ報告。

提出議案

第1号議案　役員(案)

三須会長より、現理事は引き続きお願いしたい、2名の欠員については心あたりがあり了承。

第2号議案　平成13年度事業報告

荒井副会長担当

第3号議案　平成13年度収支決算

武田財務委員長担当

第4号議案　平成14年度事業計画

荒井副会長担当

第5号議案　平成14年度収支予算

武田財務委員長担当

2）研修会について

講師　日本医科大学教授　竹内　孝仁先生

高陽堂書店協力、その他介護用品の展示。

3）その他

実務を行っていない協議会会員のための企画を要望として出された。

お知らせ

山形県介護支援専門員協議会第2回通常総会並びに研修会のご案内

来る平成14年4月21日(日)午後1時より山形県介護支援専門員協議会第2回通常総会並びに第1回研修会を下記のとおり開催いたしますので、ご案内申し上げます。

総会に欠席の場合は、同封委任状にご署名捺印の上、必ずご返送頂きますようお願いします。また、研修会の出欠につきましても同封ハガキにてお知らせくださるようお願いします。

記

山形県介護支援専門員協議会第2回通常総会

日時　平成14年4月21日(日)　午後1時～

会場　山形ビッグウイング　山形国際交流プラザ

〒990-0076　山形市平久保100番地

TEL023-635-3100

1．開会の挨拶

2．会長の挨拶

3．議事録署名人選任

4．報告

5．議事

第1号議案　平成13年度事業報告

第2号議案　平成13年度収支決算

第3号議案　平成14年度事業計画（案）

第4号議案　平成14年度収支予算（案）

6．その他

7．閉会の挨拶

平成14年度第1回研修会（午後2時～4時）

講演「ニーズの捉え方」

日本医科大学教授　竹内孝仁先生

平成14年4月1日

山形県介護支援専門員協議会

会長　三須良彦

会員各位　殿

委員会報告

◁研修委員会報告▷

委員長　岡嵜千賀子

県内各地で地区支部の設立準備が急加速しています。先陣を切って、3月23日山形地区支部の設立総会が開催されました。当日は研修会も同時開催されるということで、会員にとって身近な情報交換の場が着々と整備されつつあるようです。

また、4月21日の総会時には日本医科大学教授（リハビリテーション科）の竹内孝仁先生を講師にお招きし、『ニーズの捉え方』と題して全県研修会を開催することが決定いたしました。竹内先生はケアマネージメントの第1人者としてあまりにも有名です。ここで一旦立ち止まり、ケアマネージメントの本来の意味を見つめ直してみませんか？

せっかくの機会です。会員以外の方、介護支援専門員以外の介護の実務に携わる方にも広く聞いていただきたいと考えております。

14年度会費納入のお願い

会員の皆様には日頃、本会の運営につきまして、ご支援とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、14年度会費納入につきましては、先にご通知しておりますが、まだ納められていない会員は、お早めに、下記宛お振り込みくださるようお願いします。

記

①平成14年度会費

正会員		3,000円
特別会員		3,000円
賛助会員	一口	10,000円
		（何口でも可）

②払込先　山形県介護支援専門員協議会
郵便振替口座番号
02280－6－85487

県庁だより

◇介護保険Q&A◇

（厚生労働省Q&Aより）

Q【通院・外出介助のみの居宅サービス計画の作成について】

利用者から居宅サービス計画に通院・外出介助のみを盛り込むよう希望があった場合、このような計画を作成することについての可否如何。

A　介護支援専門員は、居宅サービス計画の作成にあたって、利用者の有する能力や置かれている環境等の評価を通じて、現に抱えている問題点を明らかにし、利用者が自立した日常生活を営むことができるように支援する上で解決すべき課題を把握することとされている（指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準（平成11年厚生省令第38号）第13条第3号）。

したがって、安易に利用者の希望に応じるのみではなく、日常生活全般を支援する観点から通院・外出介助以外のサービスの要否についても、利用者等との面接等を通じて十分に検討する必要があり、また、通院・外出介助を居宅サービス計画に盛り込む場合には、上記の課題の把握・分析の結果やサービス担当者会議での意見等を踏まえ、利用者の自立支援の観点から真に必要か否かを検討する必要がある。

このような居宅介護支援の考え方や、通院・外出介助が必要な要介護者等については通常他のサービスも必要であること等を踏まえれば、質問のような特定のサービス行為のみを盛り込む居宅サービス計画は想定されない。

県庁だより

●ケアマネジメントリーダー活動支援事業について

県では、平成14年度から介護支援専門員の地域における支援体制を強化するため、従来からの取り組みに加え、地域の介護支援専門員に対し、困難事例等についての指導助言、サービス担当者会議の開催支援等を行う「ケアマネジメントリーダー」の養成及び活動支援を行います。

《主な内容》

(1)介護支援専門員支援会議の開催

(2)ケアマネジメントリーダー研修（国主催）への代表者の派遣

(3)ケアマネジメントリーダー養成研修（県主催）の実施

(4)ケアマネジメントリーダー等相談窓口設置

(5)市町村事業補助

ケアマネジメントリーダーを中心とした連絡会議等への補助

●介護支援専門員現任研修について

平成13年11月下旬から12月下旬にかけて、平成13年度介護支援専門員現任研修を実施しました。

今年度は、2日間に日程を延長し、「介護保険制度論・ケアマネジメント論」、「住宅改修」、「福祉用具」についての時間を新規に設け、「居宅サービス計画等事例検討」の時間を拡充しました。

なお、平成14年度の現任研修については、従来の研修を「基礎研修課程」とし、新たに「専門研修課程」を設け、二分化して実施する予定です。

詳細が決まり次第、お知らせします。

《専門研修課程》

援助困難事例等を中心としたテーマ別の事例演習等を通じて、より高度なケアマネジメント技術の習得を目指す。

・演習時間：12H

・対象者：原則として、施行当初よりケアマネジメント業務に携わっている等により、ある程度の経験を積んだ現任の介護支援専門員中心

《基礎研修課程》

平成15年度からの第2期介護保険事業計画期間に向けて、要介護認定の仕組みや介護報酬見直しの動向など、制度の円滑な運用に資するため新たな知識等の習得を図る。

・研修時間：18H

・対象者：原則として、現任の介護支援専門員中心

●平成13年度山形県介護支援専門員実務研修が終了しました。

平成13年度山形県介護支援専門員実務研修受講試験の合格者375名を対象に、平成13年度山形県介護支援専門員実務研修を県内3会場で1月下旬から3月中旬にかけて実施しました。

その結果、370名が修了し、山形県介護支援専門員名簿に登録されました。これで県内の介護支援専門員登録者数は2,522名となりました。

《問い合わせ》

山形県健康福祉部長寿社会課介護保険推進室
事業担当・技術担当
（TEL 023-630-2158,2189）

コーヒータイム

手間暇をかける楽しさ

I・K

結婚してから、かかさず作っているのが祖母伝授の梅干しである。我家の朝食には必らず梅干しが並びます。梅は、体の中でうまく働くようにできているようで、肌の状態もよく、何だか体の中からきれいになっているんだ……と、実感しています。

昔からすっぱい梅干しや、梅肉エキスが体によいことは証明され、梅干しの有効性が認められています。江戸時代に流行したコレラや、明治時代に赤痢が流行したときも、梅干しが重宝されたことを祖母からきいています。スーパーにいけば、いつも加工食品が手の届くところに並び、お金を出せばすぐに、手に入る時代ですが、せめて毎日食べる梅干しは、私の味として家族に伝えたいと思っています。

祖母から伝授の梅干しは、見かけも味も特別違うわけではないけれど、続けていきたいと思っています。朝食時、お茶を飲みながら梅干しを食べるのが、私の唯一のコーヒータイムの一時です。

投稿募集

介護保険が誕生し、介護支援専門員が
実際に活動を始め、2年が
たちました。この仕事をして

感じたこと
気づいたこと
困っていること
悩んでいること
日頃思っていること

また、地域での活動の様子、こぼれ話など
内容は自由です。
書式及び締め切りは特にありません。

※会員みんなで創る会誌です。あなたからの声をお待ちしておりますのでどうぞお寄せ下さい。

送付先
〒990-0011
山形市大字妙見寺 4 特養愛日荘内
山形県介護支援専門員協議会
広報委員会 委員長　峯田幸悦宛
TEL 023-632-2791
FAX 023-632-2792

募集

この会誌は年4回発行しております。
一般広告、求人公告を募集しております。
詳しくは、広報委員会におたずね下さい。

編集後記

介護支援専門員協議会に参加させていただいて、最もプラスになったと思っていることに各職域の専門職の方たちと知り合いになったことがある。13団体の集まりで始まり、一つの職種だけでは見られない活発な意見に圧倒されることもしばしば。こんなに元気で、前向きな人達がたくさんいることに感激している。

介護保険制度はスタートから2年たち、軌道に乗ってきている反面、少しずつ細かな問題点が現れてきているようだ。いまこそ力を合わせて介護支援専門員の資質向上に努め、利用者の自立支援に努力しなければならない時である。この協議会の存在意義を改めて考え、前進していきたいものである。

広報はこれで4回発行されたが、会員の知識欲を少しでも満たしているのか、これから望むものは何なのか、皆様からもぜひ声を寄せていただきたい。

受け身でいるより自分から動き、知りたいものを知る方法を見つけよう。

もうすぐ春、お花見しましょ。

（編集子）

山形県介護支援専門員協議会会誌
第4号

発行日／平成14年3月31日
発行人／三須　良彦
発行所／山形県介護支援専門員協議会
〒990-2432 山形市荒楯町 1-8-9 山形県医師会内
TEL 023-631-4350 FAX 023-631-4352

印刷・製本／株式会社 誠文堂印刷
〒990-0043 山形市本町 1-7-50
TEL 023-632-2910 FAX 023-632-2912